

草津市ガーデニング推進事業

ガーデニング講座 3

とき 2012年8月11日(土) 午前の部：10時～12時
午後の部：14時～16時

ところ 市役所2階特大会議室

プログラム 1部 ガーデニングとまちづくりのお話
2部 ガーデニング講座(その2)
*庭づくりの基礎を知ろう
*センスある寄せ植え(コンテナガーデン)をつくろう!

講師 高田 昇(立命館大学教授・都市計画家・ガーデンデザイナー)

アシスタント 嶋かずみ(ガーデナー・一級造園施工管理技士)

1部 ガーデニングとまちづくりのお話

1. JR守山駅前(滋賀県守山市)



2. 浄土宗総本山知恩院(京都市東山区)



3. 風雅舎(兵庫県三木市)



4. ガーデン栢(兵庫県丹波市柏原町)



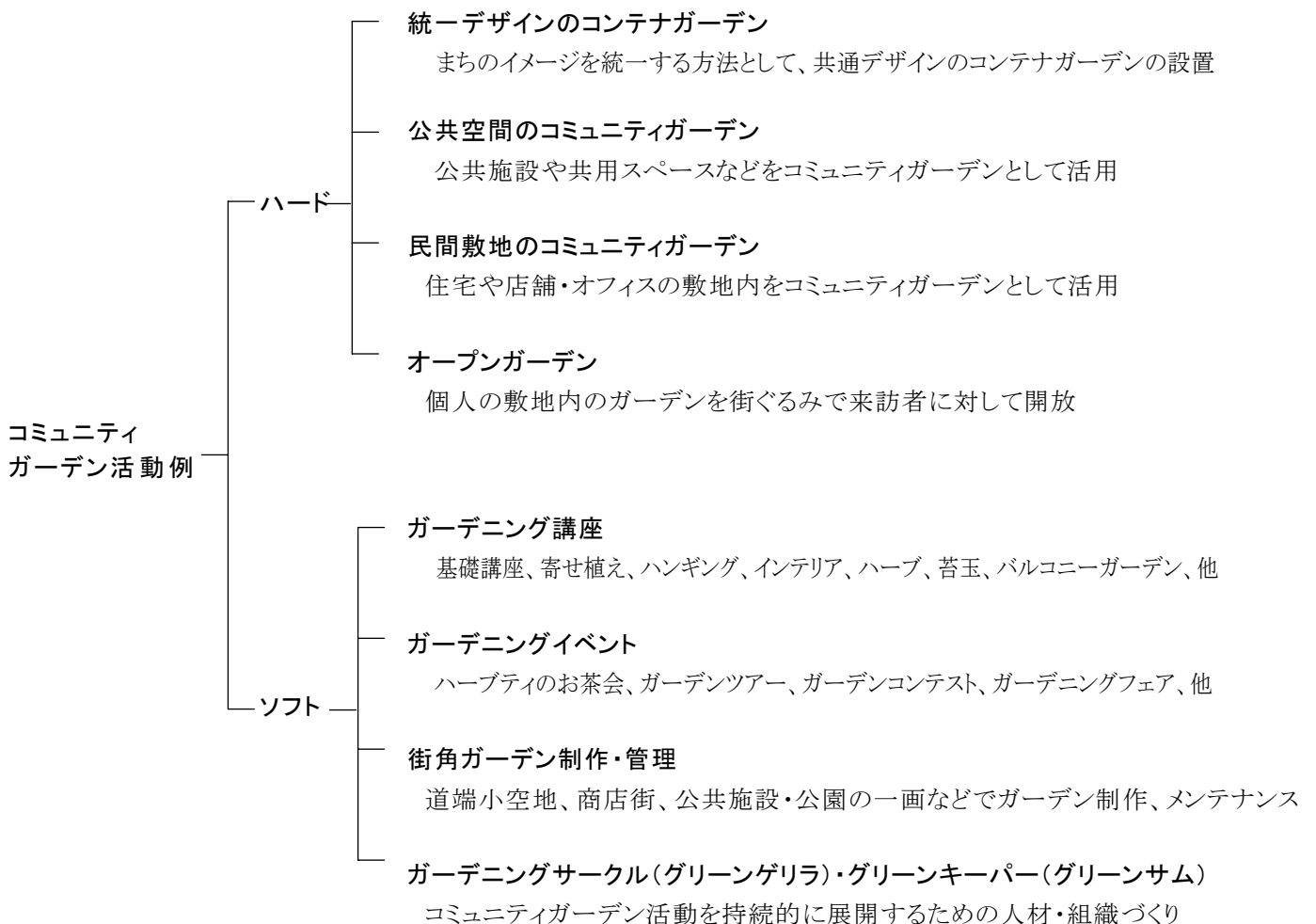
5. ゆらのガーデン(京都府福知山市)



花と緑のコミュニティガーデンへのとりくみ

世界の各地でとりくみが進んでいるまちづくりにガーデニングを取り入れる方法の代表が「コミュニティガーデン」です。コミュニティガーデンの発想の特徴は次の通りです。

- ・「個人の庭」から、市民が協働の仕組みを構築し、「みんなの庭」に進化させる。
- ・街角や軒先、店先など街をトータルに一つの庭と見立て、「街は園芸空間」と捉える。
- ・めざすところは「人と自然」「人と人」「人と地域」のよりよい関係がテーマとなる。
そのための効果的な活動の例として、次のような方法が取り入れられている。



草津市ガーデニング推進事業（平成24年度）スケジュール

年月	ガーデニング講座・視察	モデルガーデン整備	サークル活動
2012年 4月			
5月	◀ ガーデニング講座(1)		
6月	◁ 視察(1)		
7月			
8月	◀ ガーデニング講座(2)		↑ ガーデニングサークル参加 呼びかけ
9月			↓
10月	◁ 視察(2) (モデルガーデンづくり ワークショップ兼ねる)	↑ モデルガーデン 企画設計	↑ ガーデニングサークル立上げ
11月	◀ ガーデニング講座(3)	↑ モデルガーデン制作 ↓	↓
12月			↑
2013年 1月			
2月			ガーデニングサークル活動
3月	◀ ガーデニング講座(4)		

ガーデニングサークルづくりにむけて



1. ガーデニングサークルをつくる目的

「ガーデニングサークル」は、ガーデニングを通じて、参加する人の楽しみや快適な暮らしにつながり、住む人どうし、まわりの地域がよりよい関係となることを目指します。

一言でいえば、「ガーデンをテーマに暮らしと街を魅力的にしよう」ということです。

2. ガーデニングサークルの主な活動

「ガーデニングサークル」のみんなで相談しながらやりたいこと、やれそうなこと、何でも自由にやればよいのですが、まずは次のようなことが考えられます。

①ガーデニング講座・見学

専門家のお話を聞いて、ガーデニングの知識を深め、ガーデナーとしてのスキルアップをめざします。

②ガーデニング制作

実際にみんなで専門家と共にガーデンづくりをして、そのコツを楽しみながら学び、街角の魅力化につなげます。

③ガーデニングサロン

ガーデニングにまつわるテーマを取り上げ、その楽しみを広げるリラックスタイムです。

④ガーデニングイベント

⑤ガーデニングに関する情報収集・情報提供

⑥「ガーデニング便り」などニュース発行

⑦まちかどガーデン(コミュニティガーデン)の花の植え付け、手入れ

3. ガーデニングサークルづくりの手順(例)

「ガーデニングサークル」は、いつでも誰でも参加できる集まりですが、長続きさせ、発展させるためには、次のような手順で「ガーデニングサークル」としての形を整えて、スタートさせる必要があります。

①参加希望者の人を募ります。

②まずは簡単な規約や世話役を決めて、「ガーデニングサークル」を立ち上げます。

③「ガーデニングサークル」の運営ややりたいことを話し合っ、本格的に活動できるようにします。

④「ガーデニングサークル」の活動は、そのつど「ニュース」などで会員や地域の人たちに伝え、関心のある人がいつでも参加できるようにします。

4. ガーデニングサークルの運営

①「ガーデニングサークル」メンバーの中から、世話役を選んで、自主的に運営できる体制をとります。

②実際の運営には、軌道にのるまで専門家がアドバイス、支援をします。

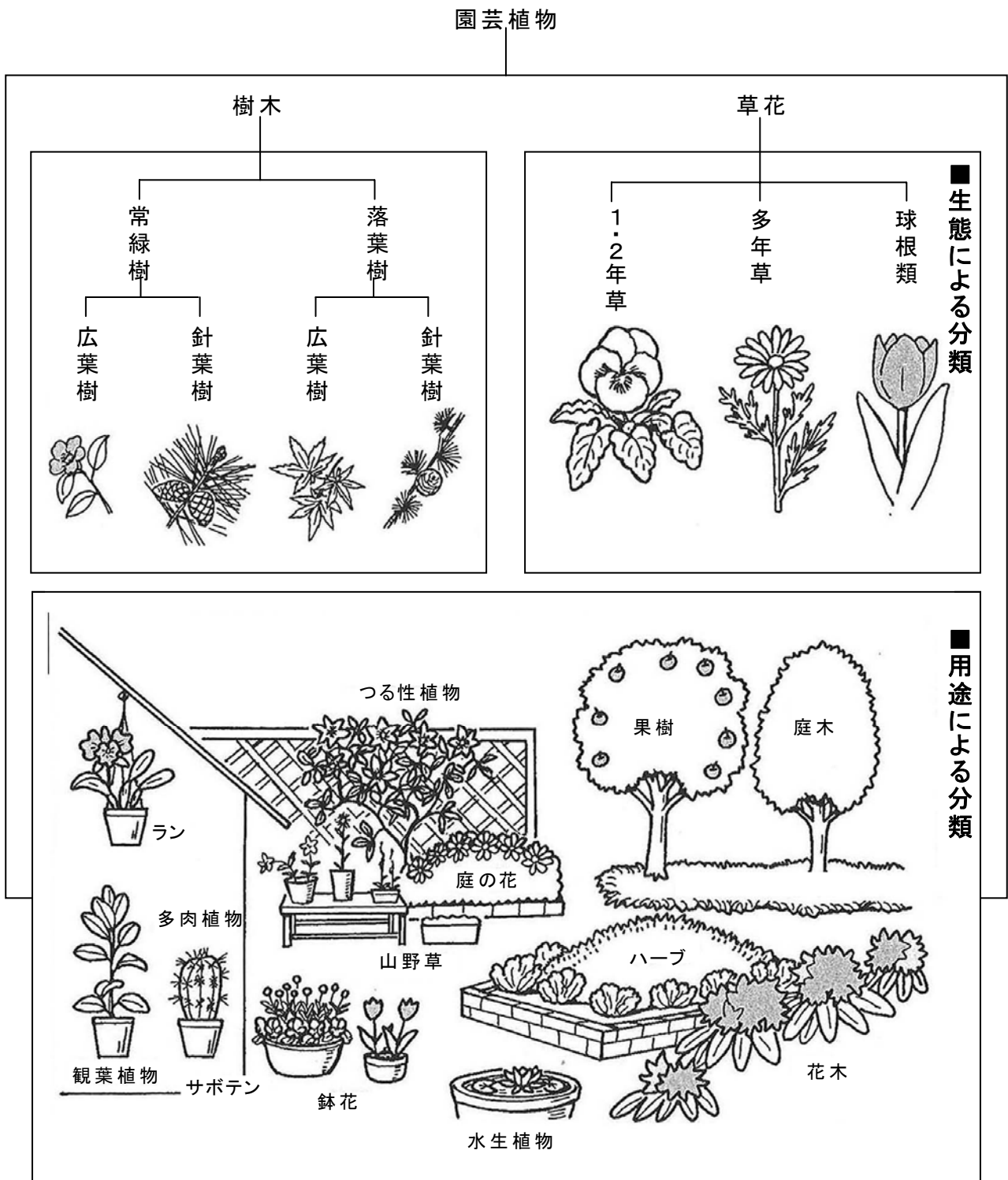
③まちなかのコミュニティガーデンの制作、手入れや手直しは、専門家と相談、協力しながら進めます。

2部 ガーデニング講座 (その2)

1. 庭づくりの基礎を知ろう

(1) 植物の分類

植物学的な分類方法ではなく、植物の習性や生育サイクル、用途別を中心に分類したものがああります。実際に栽培する場合に、取扱いが便利なので利用されています。



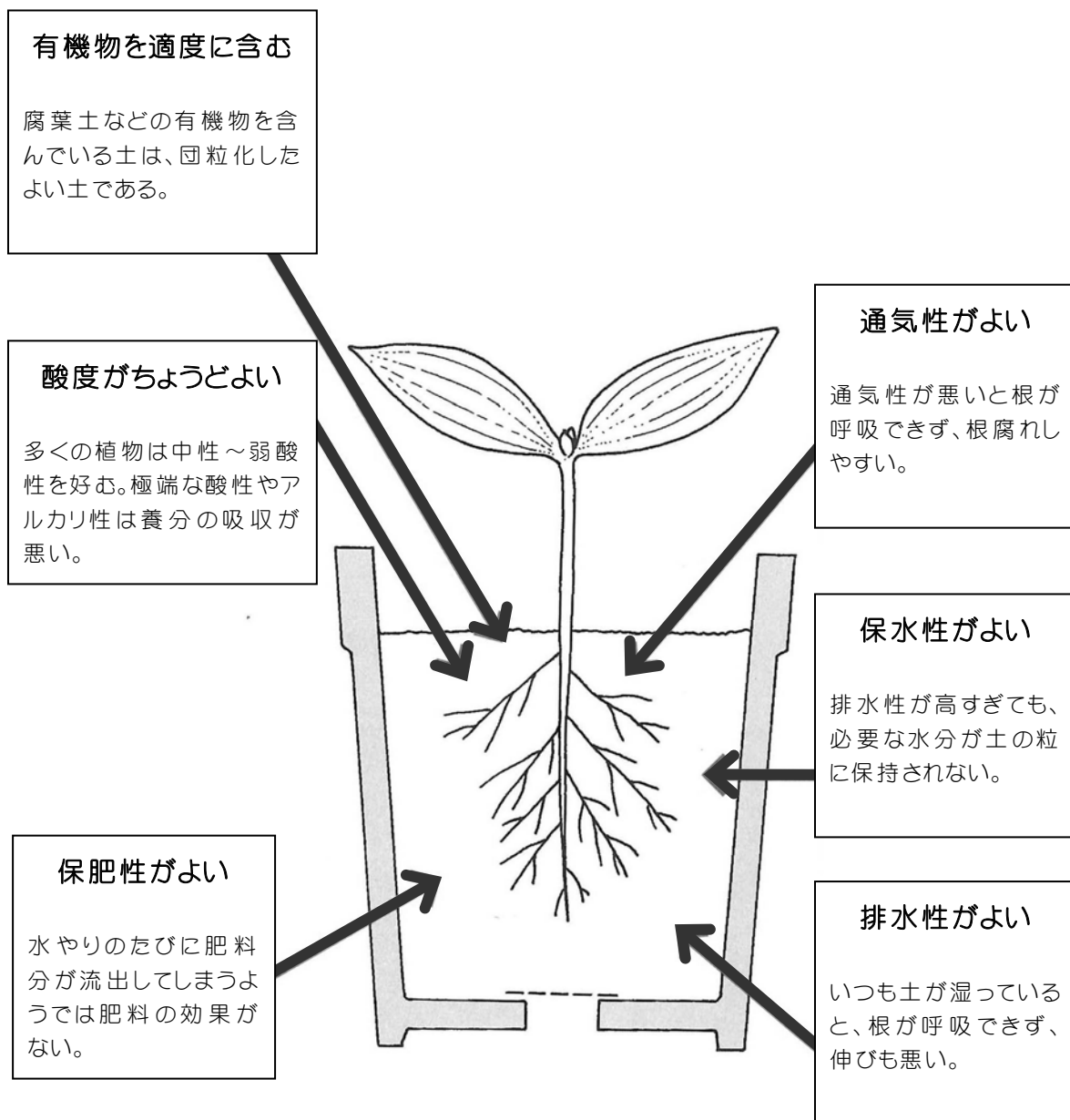
(2)土・水・光

植物と土

植物は土に根を下ろし、土の中の水や養分を吸収しています。また、根をはることで茎や葉を支えています。植物が健康に育つためには根が十分に伸びることが必要です。そのためには、土の状態が植物の生育にふさわしいものでなくてはなりません。植物を育てるときは、まず、快適な土づくりからはじめます。

■よい土の条件

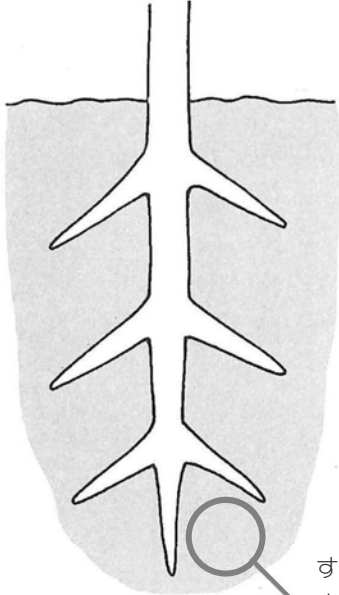
植物の健全な生育のためには、栽培に適した土を使うことが重要です。土をつくるときは、これらの条件を満たすようにします。



■よい土、悪い土

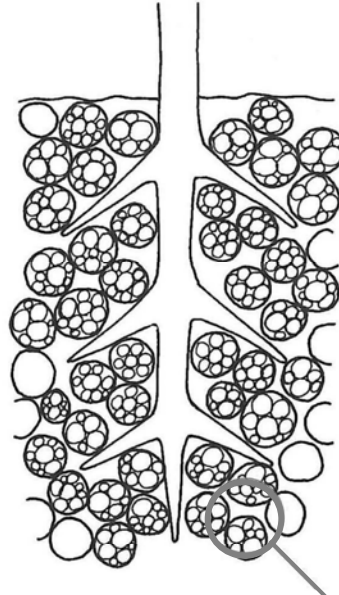
通気性、保水性、排水性といった条件は、土の成分だけでなく、土の構造にも左右される。植物が好むのは団粒構造の土です。

●悪い土「単粒構造」



すき間がないと水も
空気も通らない

●よい土「団粒構造」



このすき間が水と空
気をよく通す

土の一粒一粒は単粒といって非常に細かい。単粒が集まった「単粒構造」の土では、粒と粒のすき間が狭いため排水性・通気性が悪い。

土の粒と粒が団子状にくっついた大きな粒を団粒という。団粒が集まった団粒構造の土は、排水性と保水性を兼ね備え、通気性も高い。

害虫やセンチュウのいる土
害虫やセンチュウの被害が出た土で連作すると、さらに被害が拡大する。

ゴミの多い土
造成地や家屋を解体した後の土には、ガラス片や金属片が混ざっている。

●使うのを避けたい悪い土
病害虫が潜んでいる土で栽培すると、植物が被害を受ける。異物が混在していると、ケガをすることもある。このような土は使うのを避けるか、消毒したり異物を取り除いてから使う。

よくない土

菌におかされた土
病気の植物が生えていた土には病原菌が残っている。

雑草のタネが入っている土
庭土には雑草のタネが混ざっている可能性が高い。

I コンテナでつくる花と緑のあるスペース



1. コンテナガーデン

(1) コンテナで広がるさまざまな可能性

- ①ベランダ等広い場所でなくてもでも気軽に草花のある暮らしを始められます
- ②地植えのガーデンの周辺にアクセントとして
- ③植え込む植物とコンテナのコンビネーションによってバリエーションは限りなく広がります



(2) ひとつから楽しめるコンテナガーデン

① コンテナの演出

大きなコンテナを利用すれば、それひとつで小さな庭のように見立てることもできるし、小さなコンテナをいくつか組み合わせて、変化のあるコンテナガーデンを演出します

② 植物の演出

植物を一種類だけでまとめたり、数種類を組み合わせたりと、作り手の個性を表現します

③ イメージの演出

植える植物と飾る場所を考え、どんな感じに仕上げたいのかイメージを持って作ります



(3) コンテナガーデンの3つのメリット

① 狭い場所が生かせる

狭い場所でも植物を植え、育て、手入れをするプロセスまで含めてガーデニングのエッセンスを味わうことができるのは、コンテナガーデンのひとつのメリットです

② 移動できる

ふたつめには、季節や天候の変化で移動できること。置く場所を替えられるので、冬の間、家の中に飾っていた観葉植物を、夏は玄関先に置いて楽しむことができます

③ 小さくセンス良くできる

限られたスペースでも多種類の植物をコーディネートして植えることで表情が豊かになり、美しさは2倍にも3倍にもなります



(4) 成功の秘訣はふれ合いと水やり・メンテナンス

① 時と共に育てる

苗の植え付けや花後の手入れなど、時間の経過とともに草花とふれ合うことが、暮らしを潤わせてくれます

② ツボを押さえたメンテナンス

コンテナガーデンの成功は、ひとえにガーデナーの管理にかかっています。まずは水やりを忘れないこと。そして、植物が元気かどうかこまめにチェックし、適切なメンテナンスをします



Ⅱ コンテナに植えるために知っておきたい基礎知識

1. コンテナの種類

(1) コンテナの形

コンテナとは容器のこと!

ウインドーボックス	ポット	ローボウル	基本形
			
プランターとも呼ばれる長方形のコンテナで、ヨーロッパでは窓辺を飾るために使われます。奥行きのない場所でも活躍	正方形の深鉢タイプでスクエアポットと呼ばれます。根鉢が大きい花木やコニファーなどボリュームのある寄せ植えに	コンテナの中で種類の多いのがポット。口径と深さが同じくらいか、少し深さのある深鉢タイプ。根が深く育つ植物に最適	口径が深さよりも大きいタイプのコンテナ。深さは10~20cm程度のものが中心で、草花を植え込む寄せ植え向きです
スタンド	ストロベリーポット	樽	その他
			
深さのあまりないコンテナは、スタンドを使って高さを変えて並べれば、変化や立体感が出て奥行きを感じられるコンテナガーデンに。限られたスペースを有効に使えて便利	側面にいくつかのポケットがついた素焼き鉢で、イチゴの栽培用に作られたものです。多くの苗が植えられ、寄せ植え向き	もとはウイスキーやワインの樽や桶でタブともいいます。最近は園芸用に大小さまざま作られ、ナチュラルな雰囲気の人気	

(2) コンテナの素材

- ① **素焼き鉢**はナチュラルな風合いが魅力で、土を焼いて作った容器。焼成温度により硬さに違いがあり、昔から愛用されてきた素焼き鉢や駄温鉢は低い温度で焼くため割れやすく、高温で焼いたテラコッタ（イタリア語で素焼きの土器）は、硬く耐寒性もあります（通気性や排水性がよいので根腐れを起こしにくい反面、水分が乾きやすいのでまめな水やりが必要です）
- ② **プラスチック製**は安価で軽量、色や形も豊富に揃っています。通気性は劣りますが、保水性は抜群。湿りけを好む植物やあまり水やりができない場合には便利ですが、根腐れしやすいので注意です
- ③ **紙製**は古紙を利用したもので、軽くて通気性に優れ、使い終わったら可燃ゴミとして出せるのも便利ですが耐久性は1~2年が目安です
- ④ **木製**は素焼きと同様、通気性に優れ、また草花とも自然に溶け込み、優しい印象を作ります。使い込むほどに味が出ます
- ⑤ **サンドプランター**は砂と樹脂でできています。軽くて扱いやすく寄せ植えをショックに引き立てます。スタンド使いをするのが特徴です



2. 植え付け



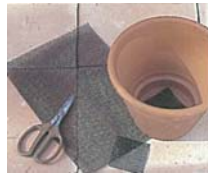
(1) 最低限必要な道具



まずこれだけあれば大丈夫。移植ゴテ、バット（土と肥料を混ぜる、土の一時保管などに）、ジョウロと霧吹き、ハサミ（花がら摘みや剪定に）、グローブ（トゲのある木の手入れのほか、土で手を荒らさないためにも）



水はけをよくするために鉢の底に敷く鉢底石（ゴロ石）と、ブレンド済みの市販の草花用培養土。慣れてくれば基本用土で土づくりを



根が十分に張れる大きさの鉢を用意。一般的には水はけがよく根腐れの心配が少ない素焼きの鉢がいい。底穴は鉢底ネットですぎます

(2) ポット苗の選び方

ともに右がよい苗、左が悪い苗。茎の根元が太く安定感があるか、茎に勢いがあるか、花の色が濃いかをチェックします



(3) 根が回っていたら



ポットから抜くと根が回っていたマリーゴールド



根鉢の底にハサミで十文字に切り込みを入れます



無理に引っ張らずに、手でほぐし開いていきます

(4) ポット苗の植え込み方



鉢底ネットで穴をふさぎ、鉢底石（ゴロ石）を1/5～1/6程度敷きます。この上から元肥を加えた土を、苗が十分入る高さを残して敷きます



苗はポットから静かに引き抜き、根が広がりやすいよう軽くほぐします。根が弱い花の場合、土は崩さない。根を傷つけないように注意



鉢の真ん中に苗を置きます。鉢は苗よりひと回りほど大きいものを。大きすぎると根が伸びず過湿になるので徐々に大きな鉢に



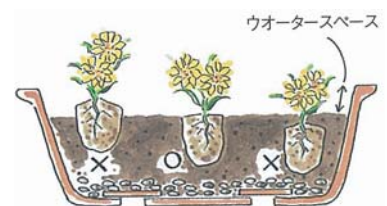
苗と鉢のすき間に土を入れます。鉢の高さギリギリまで入れずに、水のたまるスペースを残すこと。土を手で押さえて落ち着かせます



最後に鉢底から水が流れるまで、たっぷり水やりを。根付くのを待って、一週間ほど半日陰に置き、水ぎれにならないよう注意を



6 根付いたら日当たりのよい場所に移動して。1～2週間に一度は液肥を。液肥は薄いものを回数多く与える方が効果的。水やりは乾いたらたっぷり



水が流れ出ないようにウオータースペースをとり植える深さは根鉢の高さに合わせます。株元が土の中に沈んだり、土からはみ出している居心地が悪いので植え込むときに気をつけましょう

Ⅲ 寄せ植えコーディネートの基本ルール



1. 植物の決め方

(1) 植え込み植物の特性を知る

- ① 性質の似た植物を選ぶ
- ② どこに置くのか決める
- ③ 開花時期の長い植物を選ぶ

(2) 植物の成長する姿をイメージする

- ① まっすぐ伸びて背丈があるもの
- ② こんもりと横に広がってボリュームがでるもの
- ③ 垂れ下がるもの



2. センスアップさせるテクニック

(1) カラーコーディネートを考える

- ① 1色でまとめる
- ② 2～3色の同系色の組み合わせ
- ③ 補色関係の2色を組み合わせる



(2) グリーンを上手に組み合わせる

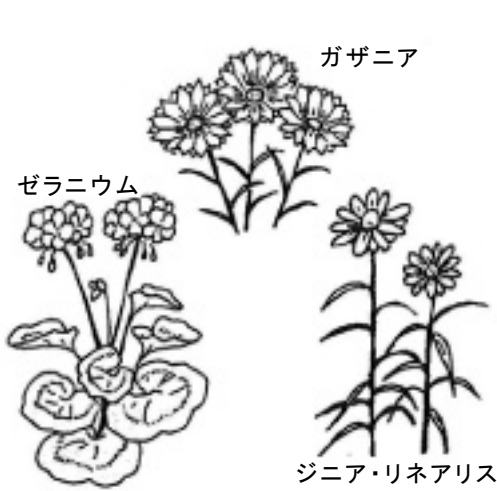
- ① 主役の花を引き立てる葉のもの（グリーン）をあしらう
- ② ナチュラルな雰囲気を出すのにグリーンをバランスよく組み合わせる

(3) 一年中楽しめる花木を主役にする

(4) コンテナとのバランスを考えて植え込む



■相性の良い組み合わせを考える



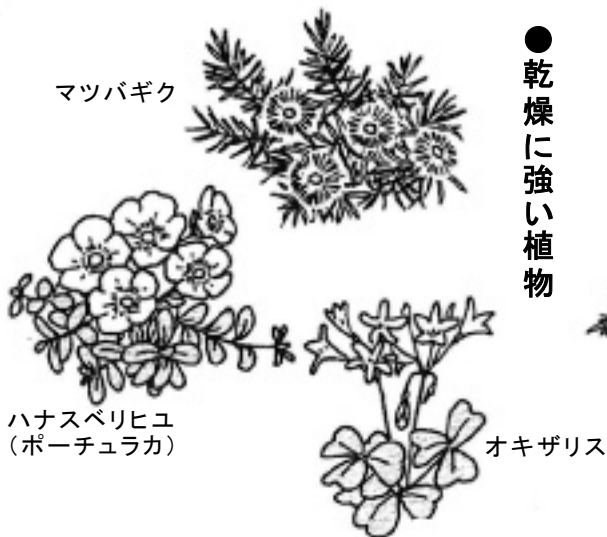
●強光線を好む植物



●弱光線を好む植物

ほかに、バーベナ、ペチュニア、アメリカンブルー、ハナスベリヒユ(ポーチュラカ)

ほかに、アジアンタム、ベゴニア類、インパチェンス



●乾燥に強い植物



●乾燥の弱い植物

ほかに、ゼラニウム、シロタエギク、ラベンダー、セダム類

ほかに、ハイドランジア、ミムラス、ロベリア



●生長したときのバランス
生長したときの草丈や樹高を考慮して、バランスのある組み合わせを決める。



●開花期を合わせる
植物の開花期を調べ、バランスを考える。また、長く楽しみたい場合は耐寒性のほかに、1年草なのか、多年草なのかも考慮する。

より美しく、元気にするために～ふだんの手入れ～

ガーデンがよりよい姿に育っていくためには、適切なメンテナンスが基本です。

手入れのうち、シーズンのポイントですべき樹木の剪定、病虫害防除、施肥といったことは専門的なことも含まれるので、またゆっくり相談します。

でも、ふだんからマメに手を加えることで、見違えるほどすてきなガーデンになっていきます。楽しみながら、花木を見つめ、語り合いながら、誰でもできる、そして効き目のある手入れのコツとは？

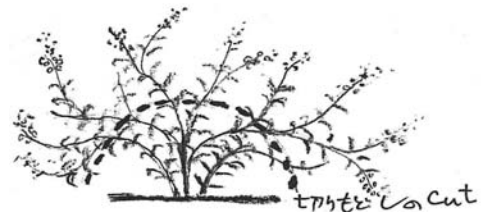
●花がら摘み

咲き終わった花を摘みとります。見た目がきれいだけでなく、株の老化や害虫を防ぎ、二番花を咲かせ、花期を長く楽しむことができます。



●切りもどし

花が一通り咲き終わった後や、生長しすぎて乱れてきた時、植物により夏・冬など過ごしにくい季節を迎える前、短くカットします。花つきを回復させ、勢いのよい新しい芽が伸びてきます。



●雑草抜き

雑草はせっかく育てようとしている草木の栄養を横取りし、根を張るジャマをするので、「生えたら抜く」ことです。それも根こそぎ抜かないと意味がありません。ただし、なかには野草として残してもいいもの、「本物」と区別がつかないものもあります。少なくともイネ科の雑草は強すぎるので抜きましょう。



●水やり

根がしっかり張るまでの地植え、そしてコンテナガーデンには水やりが必要となります。ただし、水のやりすぎ、少なすぎのいずれも困ります。土の表面がかわいたら、たっぷりやって下さい。目安は、夏は1～2日に1回、春・秋は週2回、冬は週1回くらいです。

●補植・移植

草花は生きものだから、弱ったり、ときには枯れたり、逆に強いものが広がったりします。そのくりかえしと共に、ガーデンが成長していくと考えて下さい。シーズンごとには株分けしたり、新しい株を加えたりするのもガーデニングの楽しみです。

●健康チェック

時間があれば、できるだけ日々の観察がおすすめです。植物の育ちぶりが読み取れ、自然と「植物学」が身につきます。そして、土の乾き具合、花や葉の枯れ方、病虫害の兆候など、変化がキャッチできます。SOSを感じたら、その場でやれること、プロに相談することをお考え下さい。

*ご相談はご遠慮なくガーデニングアドバイザーまで・・・COM計画研究所 TEL06-6624-2321 FAX06-6624-2737
Email takada@com-planning.co.jp